

(別紙様式2)

学力向上フロンティアスクール取組事例

(都道府県 福島県)

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

学校名及び規模

福島県南会津郡南郷村立南郷中学校							
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	1	1	0	4	10	
生徒数	34	34	34	0	102		

実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

主題(テーマ)

確かな学力を身につけた生徒の育成
～ 習熟度別指導を核として ～

テーマ設定の趣旨

平成14年度から、新学習指導要領が全面実施となり、必修教科の内容の精選、選択教科の拡大、総合的な学習の時間の創設など、大幅な改訂が加えられ、学校の独自性がなお一層求められている。

授業においても生きる力の育成として、生徒にさせる学習から生徒が自ら学ぶ学習への転換が求められている。

そこで、学びの楽しさを知り、自分で積極的に学習し、確かな学力を身につけた生徒を育成するためには、生徒一人一人の能力や適性を十分に把握し、それぞれに応じた学びの場を保障し、わかる授業を行うことが大切と考え、このテーマを設定し、習熟度別指導の導入を計画した。

特に学力の差が大きい2、3年生の必修数学・英語で、通年の習熟度別2コース編成の授業を計画し、それぞれのコースの選択は生徒自身にさせることにした。これにより、学習意欲を高めるとともに、学習の遅れがちな生徒には基礎・基本を定着させ、学習の進んだ生徒には発展的な内容をゆとりを持って指導することができる。と考える。

選択教科においても、数学・英語において習熟度別2コースの授業を設定し、自分に合ったコースを選択させることで、生徒の自己決定力を高め、一層の補充や発展学習が行えると考える。

総合的な学習の時間においては、一人一研究を行うことで、学び方を学習するとともに、生徒自身の学びの力や学力の検証の場として、学習の必要性に気づく場としたい。

このような取り組みを着実に実践することで、生徒に学ぶ楽しさを味わわせ、すべての学習活動において自分で学習することができる生徒の育成が図られ、将来にわたって生きてはたらく確かな学力を身につけさせることができると考える。

実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

生徒の実態を十分教師間で話し合い、習熟度別で行う教科を数学・英語に決定した。

習熟度別学習の利点や問題点などについて、教師間で十分に話し合いを行い、共通理解のもとに計画を立てた。生徒や保護者に対しても、全校集会や保護者会で説明し、十分に理解を求めた。

数学、英語だけでなく、すべての学習活動における研究であることを全職員で確認し、それぞれの教科においても、確かな学力を身につけた生徒の育成を目指した実践を行うとともに、それぞれの教科に習熟度別学習の効果がどう表れるか検証を行うこととした。

() 研究実践の内容

(1) 必修教科における取り組み(数学、英語の習熟度別指導について)

グループ編成、コースのねらい

- ・数学A、英語A
生徒の実態に応じ進度を調整し、発展的な学習の時間を設定する。
- ・数学B、英語B
既習事項を復習する時間を確保し、教科書の内容の確実な理解を目指す。

実施方法

- ・通年ですべての時間をA、B 2コースに分け、2人の教師がそれぞれを指導する。
- ・コースのねらい、学習内容を十分説明し、生徒自身にA、Bを選択させる。
- ・前期、後期でコースの編成替えを行うが、單元ごとに随時移動を認める。
- ・指導内容はコースによって異なるが、単元の進度は一致させる。
- ・単元末テスト、定期テストはA、Bとも同一の問題を使用する。
- ・評価、評定は、評価規準や各種テスト等を参考に、2人の担当者が協議して行う。

今年度の成果

1) 生徒の変容

- ・習熟度別指導の継続を9割の生徒が希望しており、生徒の学習に対する意識は高まっている。
- ・習熟度別の授業の方がわかりやすく充実していると感じている生徒が多い。
- ・学習意欲の向上はめざましく、放課後自主的に学習していく生徒が多くなった。
- ・定期テストや単元テストの結果から、学力の着実な伸びが見られる。

2) 教師の変容

- ・きちんと手をかければ、生徒は確実に伸びることを事実を通して実感できた。
- ・教材の精選・重点化や基礎・基本の明確化など、教材研究の質が高まった。
- ・補充的・発展的な学習についての研究が充実し、個に応じた指導の力が高まった。

今後の課題

- ・習熟度別2コース編成の第一の課題は、中間層の生徒への指導の充実である。
- ・單元ごとのコース別指導計画を、より詳細で具体的なものにする必要がある。
- ・指導の成果を学年全体でとらえるための、よりよい評価方法を工夫する。
- ・指導の効果を一層高めるために、コースに応じた独自の教材開発に努めたい。

(2) 選択教科における取り組み(2、3年の実践を中心に)

教科グループと、その基本的なねらい

- ・数学A、数学B、英語A、英語B ----- 補充的な学習、発展的な学習を行う。
- ・理科、社会 ----- 個人の興味・関心に応じたテーマを設定し、追究する。
- ・国語、音楽、美術 ---- 創作・表現活動に中心をおき、成就感、達成感を味わう。

学年ごとの教科編成、配当時数

1) 第2学年(合計85時間)

- ・35時間を数学A、数学B、英語A、英語Bの2教科4コースから1つ選択。
- ・50時間を国語、音楽、美術の3教科から1つ選択。

2) 第3学年(合計165時間)

- ・70時間を数学A、数学B、英語A、英語Bの2強か4コースから1つ選択
- ・50時間を国語、音楽、美術の3教科から1つ選択。
- ・45時間を理科、社会の2教科から1つ選択。

国語、音楽、美術は、2、3年合同で行う。

今年度の成果

- ・数学、英語は習熟度別で行ったため、個に応じた指導ができ学力向上につながった。
- ・理科、社会は一人一研究を行い、主体的な学習が見られ、発展的な内容への取り組みが多かった。
- ・国語、音楽、美術では様々な表現活動を行い、コンクール等で多数入賞した。

今後の課題

- ・必修教科と選択教科の位置づけを明確にし、効果を高める方策を検討したい。
- ・生徒の主体的な学びに応じた年間指導計画に改善していく必要がある。

(3) 総合的な学習の時間の取り組み

学習内容、ねらい

年間70時間すべてを生徒の興味、関心に基づく一人一研究にあて、テーマ設定、調査・研究、論文執筆、発表の一連の活動を通して、学ぶ楽しさを味わわせるとともに、学び方を身につけさせる。

実施方法

- ・学年オープンで全校一斉に行い、全校生を全教職員で分担して担当する。
- ・テーマによってグループを編成し、各グループを1教師が年間を通して指導する。
- ・研究のまとめと発表会はそれぞれ年2回(1学期末、学年末)行う。
- ・各自のテーマについて、「学校一の専門家になる」ことを目指し、追究していく。
- ・最終目標は、全校生が、各自のテーマについて論文を完成させることにおく。

指導の経過

- ・第1学期 テーマ設定 学習計画作成 調査・研究 中間まとめ 中間発表
- ・第2学期 学習計画の修正 調査・研究 論文のまとめかたの確認
- ・第3学期 論文執筆、発表資料の作成 最終発表 論文完成

今年度の成果

- ・テーマについて深く追究できたと感じている生徒が全校生の6割いる。
- ・次年度も一人一研究を希望する生徒は約半数である。グループで1テーマを追究したいという生徒を含めると9割が今年度の取り組みの継続を希望している。
- ・中間発表では全員がレポートを作成して発表した。保護者も感動していた。

今後の課題

- ・全校生が同時に学習すると資料が絶対的に不足する。対応策が必要である。
- ・生徒による取り組みの差は大きい。一人でできない生徒への支援のあり方が課題。
- ・全職員が担当しているので、出張等が入ると指導者なしで学習せざるを得ない。

(4) 小・中・高の連携強化

実践のねらい

地域に高等学校があるという恵まれた環境を生かし、小・中・高の連携を密にし、情報交換に努め、将来の目指すべき生徒像を明確にして、各学校段階での指導を充実させるとともに、上級学校へのスムーズな橋渡しができるようにする。

具体的な実践事項

- ・南郷村基礎学力向上推進計画に、具体的な小・中・高の連携計画を位置づける。
- ・村としての計画に基づき、各学校ごとの研究計画に沿って実践を累積する。
- ・今年度新たな取り組みとして、小・中、中・高の教師によるT・T指導を行う。

小・中、中・高の教師によるT・T授業の実施

- ・南郷中3年(英語) 本校教師と南会津高校教師がT・Tで指導(2回)
- ・南郷一小4年(算数) 本校教師と南郷一小教師がT・Tで指導(3回)
- ・南郷二小5年(国語) 本校教師と南郷二小教師がT・Tで指導(3回)

今年度の成果

- ・具体的な取り組みの視点が見える「基礎学力向上推進計画」を作成できた。
- ・第1回基礎学力向上推進会議では、充実した協議、情報交換がなされた。
- ・T・T授業打ち合わせでは、教材内容、指導方法に踏み込んだ情報交換ができた。
- ・年3回のT・T公開授業には多数の参加者があり、充実した討論がなされた。

今後の課題

- ・推進計画をさらに検討、改善し、村としての取り組みを充実させたい。
- ・生徒の学力の実態まで情報交換の対象とし、具体的な取り組みにつなげたい。
- ・学校間T・Tは効果も大きいですが、担当者の負担も大きいので、効果的な実施方法を工夫したい。

() 成果と課題

(1) 今年度の成果

数学、英語の習熟度別指導を核に、必修・選択・総合の3本柱で進めてきた学力向上策は、全体として成功した。

生徒の学習に対する意識が明らかに変化し、学習意欲が高まってきたことが、アンケートや日常観察から見て取れる。それに伴い、学力も着実に向上してきた。

教師の授業に対する意識が変わり、教材研究も深くなった。習熟度に満足するのではなく、その中で効果を高めるためにどうするか工夫するようになり、指導力が向上した。

南郷村ライジングプラン推進の基幹校としての役割を果たせた。これまでの取り組みを抜本的に見直し、次年度につながる道筋をつけることができた。

(2) 今後の課題

学力向上策の成果を単年度で把握するのではなく、実践を通して明らかになった課題を改善しつつ、継続して実践することにより成果を検証していくことが必要である。

今年度は、個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善に重点をおいて実践してきた。今後は、教材の開発や評価についても研究し、実践につなげたい。

フロンティアスクールとしての役割を果たすためにも、本校の実践を広く公開し、成果を普及できるように、公開授業や実践記録の刊行に取り組みたい。

() 成果の普及方策

(1) 平成14年度

- ・数学、英語の授業を各1回、南会津郡内の各学校に公開した。

(2) 次年度以降

- ・年1回、研究発表を行い、授業を公開するとともに、実践記録を配布する。

() その他(その他、特色ある取り組み)

特にない